

本校生徒会活動の現状

玉 銚 良 三

〔1〕 はじめに

今年（1984）の6月、金沢市内のある高校の文化祭で、石川県内13校の生徒会役員によるパネルディスカッションが行われた。この種の討論会はこの高校で毎年行われており、今年のテーマは、「生徒会行事のめざすものは何か」であった。本校からも5名の役員が参加した。出席した生徒によれば、生徒会が抱える多くの問題に活発な意見が交わされたが、各校共通の悩みとしては、生徒一般の関心がうすい、役員立候補が少ない、などであったとのことである。

生徒会というものに対する一般生徒の関心の低さについては、ずっと以前から、また殆どどの学校で問題とされてきており、常に古くて新しい問題なのかもしれない。しかしその一方で、学園祭をはじめとする生徒会行事はかなり活発であり、また、多くの学校ではいろいろな部活動がめざましく行われている。本校に於ても、生徒会役員の選出にあたっては無競争であることが多く、生徒会の組織や規約、あるいは生徒議会などについてみると、一般生徒の関心はかなり低いといえる。しかし、行事への参加と部活動は、小規模校であることも手伝って、一部を除けばそれ程消極的とも思われない。

本校の生徒会については、1966年に、当時の補導部主任 光谷音吉が紹介したことがある。（「生徒会活動と諸行事」本校紀要 No.18）

しかし、それから既に20年近くが経過しており、基本的姿勢に大きな変更はないものの、その具体的内容になるとかなりの変遷が生じてきている。

また、1980年には一部の生徒会行事が紹介された。（米谷数子：「本校の特色ある生徒会行事」本校紀要 No.32）

今回は、上記の両報告を少しく補足すると共に、その後の変更などにも触れて、本校生徒会の現状を大まかに紹介することとする。

〔2〕 生徒会の組織と運営

（一） 本校生徒会の規模

本校は各学年3学級 計9学級で、生徒数は約410名と少ない。うち女子はどの学級でも約3分の1である。入学してくる生徒のほぼ6割が付属中学から、残り約4割が石川県内の一般中学から来てい 大半の生徒は中学時代に、生徒会活動や学級での役員・委員の経験をもっているようである。なお、本校は昭和22年（1947）に創立され、今年で37年目を迎えている。

(二) 生徒会の組織

本校の生徒会は、1年間を前期(4~8月)、後期(9~3月)に分けて活動している。4月と7月には、種々の役員選出が行われる。

まず、全校生徒の投票によって選ばれる役員は次の6名である。

- 執行委員長
- 執行副委員長
- 書記
- 会計
- 新聞編集局長
- 放送局長

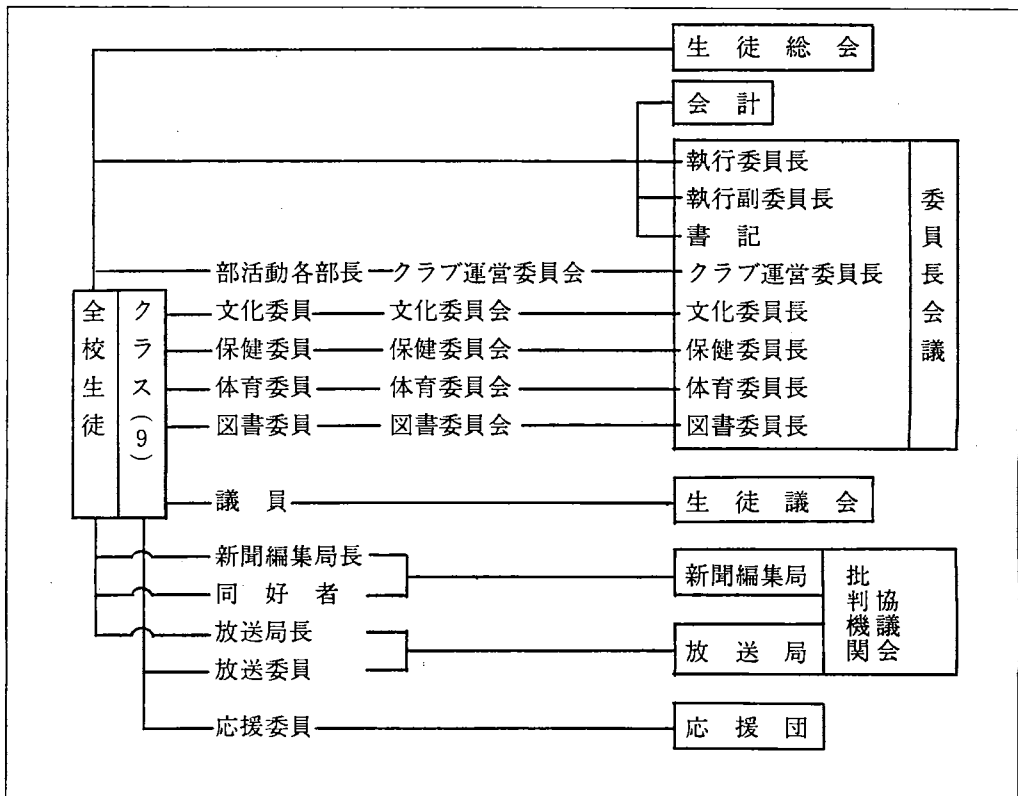
この4名は、生徒会執行部と通称されている。

また、各学級(9クラス)毎に、次の委員が選出され、委員会等を構成する。

- 文化委員 (2名)
- 体育委員 (2名)
- 保健委員 (2名)
- 図書委員 (2名)
- 放送委員 (2名)
- 議員 (3名)
- 応援委員 (2名、ただし3年生を除く)

以上を含めて、生徒会の組織をまとめると次の表の通りである。

(第1表)



(三) 生徒会の運営

生徒会の活動は、後に述べるいくつかの生徒会行事や部活動をはじめとして、学校新聞の発行、放送活動、各委員会毎の活動など多岐にわたる。いずれも、各顧問教官、生徒指導部、あるいは教官会議による指導が行われて運営されるのは当然であるが、生徒の自主性を特に重視している。これを反映してか、最近は執行部や委員会によるアンケート調査や、生徒会報の発行が頻繁に行われている。

次に運営面に関する若干の項目について概略を示す。

(1) 最近の10年間における役員立候補の状況

昭和50年度から59年度まで、延べ20回の役員選挙のうち、無競争は16回であった。複数の立候補があった回は次の通りである。

- 50年前期 各ポジションに多数（人数の詳細は不明）
- 50年前期 執行副委員長と書記に各2名
- 54年後期 執行委員長に2名（2年生と1年生）
- 58年後期 同上（2年生のみ）

(2) 生徒会の運営経費（昭和59年度）

総額	約300万円		
収入内訳	生徒会費	1入年額	6900円（58年度6300）
	入会金	新入生のみ	575円
主な支出	部活動補助	83万円	（支出の約27%）
	行事関係	60万円	（20%）
	新聞発行	53万円	（18%）
	大会参加料	40万円	（13%）
	図書購入	19万円	（6%）

(3) 生徒会関係規約	ア 生徒会会則	15章	75条
	イ 生徒議会法	4章	14条
	ウ 議会運営法	14章	37条
	エ 批判機関協議会構成法	3章	20条
	オ 応援団細則		10条

上記のうち、議会運営法は昭和40年度に制定されたものであるが、それ以外は30数年前の生徒達により作られたもので、ごく一部の改正を経て今日に受け継がれている。これらは全て生徒手帳に載せられている。

(4) 部活動一覧（59年度）

- | | | | |
|------------|--------|-------|----------|
| ○ 男子バスケット | ○ 野球 | ○ 卓球 | ○ ハンドボール |
| ○ 女子バスケット | ○ 柔道 | ○ ESS | （同好会） |
| ○ 男子バレーボール | ○ 剣道 | ○ 茶道 | |
| ○ 女子バレーボール | ○ 陸上 | ○ 科学 | |
| ○ サッカー | ○ 男子硬庭 | ○ 合唱 | |
| ○ バドミントン | ○ 女子硬庭 | ○ 吹奏楽 | |

〔3〕 主な生徒会行事

(一) 概況

現在、本校での主な生徒会行事は次の6種である。

- 運動会
- スポーツ大会
- 寮歌大会（合唱コンクール）
- 火の祭典
- 開校記念祭（文化祭）
- 予餞会

第2表に示すように、20年前にくらべると、対名大附高交歓会をはじめとして、マラソン大会、クラブ対抗サッカーなどが消えており、また10年位前迄行われていた水泳大会もなくなってかなり縮小された感がある。同時に、以前には行われていなかったもので、最近に新設された行事は1つもない。

(第2表

		昭和59年度	昭和40年度
4月	上旬	生徒会及びクラブ紹介	同 左
	中旬	生徒会前期役員選挙	同 左
	下旬	生徒総会	同 左 スポーツ大会
5月	中旬		運動会
6月	上旬	県高校総体	同 左
	中旬	運動会	ソフトボール大会 公聴会
7月	上旬	スポーツ大会 寮歌大会 歌の祭典 火の祭典 生徒会後期役員選挙	第一回座談会
	中旬		第二回座談会 同 左
	下旬		ファイアストーム 名大付高との交歓会
9月	上旬	生徒総会	スポーツ大会
	中旬		生徒会後期役員選挙
10月	下旬	スポーツ大会	
11月	上旬	開校記念祭	ソフトボール大会 開校記念祭
	下旬		マラソン大会
12月	中旬		クラブ対抗サッカー大会
	下旬		合唱コンクール 冬季球技大会
2月	中旬	予餞会	予餞会
			公聴会および総会

(二) 運動会

他の行事と組み合わせることなく、毎年6月中旬に行なっている。この時期は梅雨のはじめではあるが、5月下旬には1学期の中間テストがあること、6月上旬には石川県高校総合体育大会があること、などの都合による。

準備と運営のために、約1ヵ月以上前から、生徒会の中に運動会運営委員会が設けられる。その構成はほぼ次の通りである。(昭和58年度の例)

○ 委員長	○ 委員長補佐	○ 副委員長	○ 記録
○ 印刷	○ 会計	(以上各1名)	
○ 総務		生徒会執行部、	体育委員会
○ 召集・誘導		バレー部	
○ 審判		男子硬庭部	
○ 得点集計・表示		卓球部	
○ スタート・ゴール		陸上部・サッカー部1年	
○ 聖火		バスケット部	
○ コーナー		サッカー部2年	
○ 消費用具		女子硬庭部	
○ 耐久用具		剣道部・柔道部	
○ 着順		バドミントン部・女子バスケット部	
○ グランド整備		野球部	
○ 受付・接待		茶道部	
○ 放送		放送委員会	
○ 救護		保健委員会	
○ 応援		応援団および有志	

運動会の内容を大別すると

1 入場行進と開会式	2 競技	3 応援披露
4 フォークダンスと閉会式	である。	

まず、クラス毎の入場行進であるが、これを採点の対象としていることもあって、年々趣向を凝らす結果、各クラス共さながら野外劇といった様相を呈していた。アイデアを競うのは良いとしても、時間が1時間半位にも及んでいたため、運動会という行事にそぐわないとの意見がかなりあった。57年度からは教官の指導もあって、時間制限をし、時間の延長は減点をすることとしたため、その後は約45分位で終わるようになった。

同じく時間がかかり過ぎとの批判があったのは、応援披露である。この応援披露というのは、午後の部の最初に、各学年毎に観客の前に整列して行う種目である。1、2年生は比較的短時間ですませていたが、例年3年生のものが約1時間位もかかっていた。時間が長くかかる最大の理由は、「討論」と称するものが盛られているためである。これは、数名の教官の1人1人に色々な質問をしたり、逆に問題を出されたりして、それに関する応答をするものである。

次に示すものは、この討論をやめさせようとする学校側の姿勢に対して、3年生から出た反応である。運動会のみならず、生徒会行事全般についての本校生の意識の一端を示しているように思われる。

「討論」に対する建白書

我々35回生応援団一同は、運動会に於ける応援披露の一部に、教官と生徒との「討論」を行いたいと思います。

今や、運動会は4日後に迫っています。我々は是非とも、「討論」を行いたいと考えております。そこで、形式や意義について、併せて善処願いたく存じます。

先ず、形式について説明申し上げたいと存じます。

★3年担任教官御三方に一人一問ずつ我々に提示していただき、それを我々が討論の形式をもって返答申し上げます。★

33回生の「問答」と異なる点は、第一に時間を長びかせないこと、第二に教官方を「やりこめる」のではなく、教官が生徒に質問し、その返答の巧拙を競うことにあるわけで、ややもすれば稚拙になりがちな「問答」の弊害を改めたい点にあります。

我々が1年生の頃、「問答」を見て非常に感銘を受けた点は、冗談を冗談として流す先生方の寛容さ、我々の先導者、教育家としての逞ましさを感じたことです。我々の中には（特に一般中出身者は）中学時代教師と近い関係を他の生徒より持っていたことは事実ですが、その我々にとっても以上のことは思いもつかないことで、付高入学約2ヶ月にして付高生としての自らがあることのうれしさを強く感じたことを記憶しております。（確かに33回生の遣り方は一非難の言葉を借りるまでもなく一「教官を嘲笑う」という面が見られ、それは我々としても遺憾に感じました）

現代社会は本校以上に硬直化管理化しています。その中で我校だけでも柔構造でありたいと思いますし、それが我々の義務・権利であると考えます。発作的な放縦でない自由や楽しさというものを付高生一人一人が誇りに思っている以上、これらは絶えず追いつめられるものだと思います。

我々もそのような立場に立った上で、教官の方々との人間同士としての交流を行いたいということなのであります。そしてこの表現方法として、運動会での「討論」が最も適切であることに意見の一致を見、慈に建白書を提出した次第であります。

昭和五十八年 六月十日

本校第三十五回生応援団

また、次に示す学校新聞の記事も、本校の運動会の性格、一般生徒の意識をよく表わしている。

『6月中旬に行われる運動会は、前期最大の生徒会行事である。学級対抗で競技の得点を競い各学級の団結を図るのを目的とする。

本校の運動会の目玉は入場行進である。単なる行進に終わらず、趣向を凝らし、寸劇のようなものを各学級が行う。執行部から「主張を盛り込め」という要求もあったが、一般に「面白ければよい」という意識が定着している。これまで三年生が扱ってきた題材は受験が多い。この入場行進ではいつも「時間の超過」が問題点として挙げられている。執行部ではその対処として制限時間を設け、それを超過したクラスには減点、といったルールを設けている。

その他、付高男児の雄姿が現れる応援披露は、新一年生にとっては興味深く思われるだろう。運動会終了後、学級単位でコンパを行うクラスもある。この一日は付高生が、「集中して遊ぶ」日なのだ。』

(三) スポーツ大会

1学期の終り頃と、2学期中間考査後の年2回実施している。それぞれ1日半ずつ、即ち、第1日目は全日、2日目は午後だけである。体育委員会が中心となって行う。競技種目は生徒の意見をもとに決定されるが、選手数に学級で制限があるため、自分の希望する種目に出場できない場合もある。学級単位で各競技・得点を競い合うことにより、学級の団結を図っている。

特に問題になるようなことはないが、近年3年生が中心になってきた感がある。10年前位までは、3年生は勉強に懸命で、現在のように全員が参加するようなことはあまりなかった。最近では、秋の大会でも、いくつかの種目で3年生の優勝がみられるようになった。

(四) 歌の祭典 〈寮歌大会〉

この行事はもともと、ファイアストーム（最近では火の祭典と呼んでいる）の時に歌う旧制高校の寮歌を覚えさせる目的があった。しかし近年では、火の祭典とは一応独立した別個の行事となってきている。即ち、文化委員会が中心となって行う一種の合唱コンクールであるが、課題曲を寮歌の中から選択し、自由曲と合わせた2曲を学級ごとに発表する。

本校創設以来、旧制高校の寮歌が歌い継がれてきているのは、およそ次のようないきさつからである。

- 金沢大学の母体の1つが旧制第四高等学校である。四高は毎年八高と定期的に遠征試合を行い、「南下軍」の寮歌を歌い、ファイアストームをしていた。
- 本校と名古屋大附高との間でも、昭和33年から44年まで交換試合が行われ、その壮行会で寮歌が歌われた。
- さらに、本校創設当時の校舎には講堂も体育館もないため、文化祭や予餞会などは四高の講堂を借りて行われた。このため、四高、さらに旧制高校の寮歌を受けつぐふんいきが自然に生まれてきた。

現在、生徒手帳にのせられている寮歌は次の5曲である。

- 第一高等学校寮歌（嗚呼玉杯に花うけて……）
- 第三高等学校琵琶湖周航の歌（我は湖の子 放浪の……）
- 第三高等学校逍遙の歌（紅萌ゆる岡の花……）
- 第四高等学校寮歌（北の都に秋たけて……）
- 第四高等学校応援歌（ただに血を盛る瓶ならば……）

現在の生徒間には「こんな古くさいものを歌う意味はない」とか、歌の祭典の行事を「単

なる合唱コンクールに」との声もあるが、「伝統の血が流れている。歌い継いでいこう」とする意見が多数のようである。

次に昭和58年度の内容の概要を示す。

- 名 称 寮歌大会
- 期 日 昭和58年7月19日 第2～4限
- 目 的 1 寮歌が今日、我々に持つ意味を考える。
2 歌の練習を通じて、クラスの団結を図り、協調の精神を養う。
- 審 査 1 5名の教官による。
2 課題曲（寮歌）の得点を3倍して自由曲の点を加え、100点満点とする。
- プログラム 1 5クラス発表
2 吹奏学部、合唱部発表
3 4クラス発表
4 音楽選択者による合唱

なお、59年度では、寮歌をクラス対抗としなかった。その理由は、何度かにわたるアンケートの結果、「寮歌というものはいちいち評価して、その得点を競うものではない」、「得点を争うとなると、アレンジした方が有利。でもアレンジした寮歌であっていいのか」、「寮歌は音の長さなどを気にせず、のびのび歌いたい」などの意見が多数あったためである。

このため今年度は、寮歌は屋外に出て、応援団などの指揮により、全員で歌うという形式がとられた。

（五） 火の祭典

次に示すものは、昭和59年度における概要である。

- 日 時 7月19日（木） 午後7.00～8.20
- 当日のスケジュール 1 集合（7.00）、出欠点呼、諸注意、発声練習
2 木組みのまわり集る
3 校歌
4 点火
5 歌（応援歌、青春時代）
6 3つの山台に分れる、山台ごとに盛り上げる
7 馬蹄型に集る、歌（北の都 その他）
8 第一次消火 歌（琵琶湖周航の歌 その他）
9 火を見る。消火
10 団長の口上、解散（8.20）
- 組 織 ア 進行（18名） イ 召集（8） ウ 警備（24）
エ やぐら作成（4 他に応援団） オ 火の係（18）
カ 安全管理（7） キ 救護（4） ク 後始末（17）
ケ 女子参加調査（2）

この行事は、昭和27年にはじまったものであるが、それ以後約30年の間に4回の中止がある。生徒の不祥事が発覚したことによる教官会議の決定で、その翌年度の実施が取り止めと

なっている。この行事は以前はファイアストームとよばれていたが、近年は火の祭典と称し、内容的にもストームという色彩はかなりうすくなった。しかし、行事の性格から不祥事を招きやすく、教官の間にも種々の意見がある。一方、生徒の側には実施への希望が根強くあり、ほぼ数年毎に、中止・復活・不祥事をくり返している。

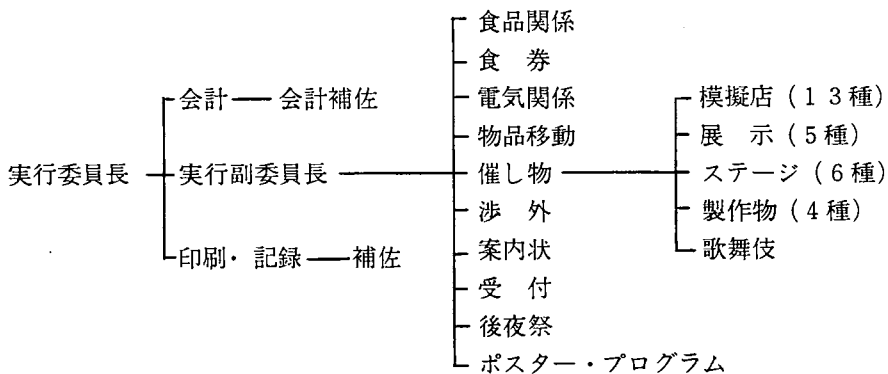
(六) 開校記念祭 <文化祭> <学園祭>

本校では10月末、または11月はじめに実施している。これは、本校の創立記念日が11月8日であることに関係している。因みに石川県内の高校では、学園祭は9月中旬からはじまり、11月上旬までにわたるが、9月中に行う学校が最も多いようである。

最近の本校の記念祭は、ほぼ2日間(土・日曜)の日程で、公開により行われている。その内容はほぼ次の通りである。

- 開校記念式 永年勤続職員の表彰など。(57年度では古い卒業生5人に話をしてもらう)
- 歌舞伎上演 長らく予餞会で行われていたが、3年前から記念祭の中に組み込まれた。
- 展示 付高新聞展・国際展・保健展・科学展・写真展 など。
- 模擬店 主としてスポーツ系の部毎に運営、 レストランなど。
- 製作物 シンボルタワー・入口ゲート・案内板・壁画 など。
- ステージと武道場を使う出し物 軽音楽・英語劇・合唱 など。
- 後夜祭 キャンドルサービス など。

準備は7月下旬頃からはじまり、生徒会の中に次に示すような実行委員会が組織される。(昭和58年度の例)



生徒による歌舞伎上演は過去20年間、毎年続けられている。第1回目は昭和38年度の子餞会(39年2月)で2年生の1クラスが行った。これがやがて、2年生全体による予餞会の目玉行事へ発展していったが、昭和56年度から上演時期をくり上げて、記念祭で行うようになったものである。歌舞伎上演に関する詳細は、前記のように、米谷より紹介されたことがあるが、教官、生徒の双方に好評を得ており、最近では、記念祭の間に2回上演してはどうか、という声も拳がっている。準備は夏休み中から行われ、2年生の半数以上が何らかの役割を分担する。

最近2年間の記念祭の内容は次のようである

(第3表) 57・58両年度に共通して行われたもの

模 擬 店	レストラン	バスケット部	ス テ ー ジ	歌舞伎	2年有志
	ティールーム	バレー部		後夜祭	執行部
製 作 物	コーラホール	軟球部	展 示	軽音楽コンサート	有志
	占いとアイス	陸上部・剣道部		英語劇	ESS部
	茶席	茶道部		合唱	有志
	やきいも	野球部		ブラス演奏	ブラス部
	お化け屋敷	サッカー部		プロレス	有志
	迷路	卓球部		展	国際展
	プレイランド	硬庭部			科学展
	壁画	1年C組		示	保健展
	案内板	1年A組			付高新聞展
	シンボルタワー	1年B組			
	入口ゲート	有志			

57年度では上記共通内容のほか、さらに次の内容が加わっている。

- 手芸展 有志
- 優生保護法改正に関する展示 有志
- 美術展 美術部
- がらくた市 有志
- びっくりハウス バドミントン部
- モダンバレー 有志

また、58年度でも(第3表)以外に次のものが実施された。

- 俳句・短歌展 有志
- のど自慢大会 有志
- 写真展 有志
- 金魚すくい 有志
- 書道展 有志
- 憩いの場 柔道部
- 古レコード市 有志

以上のような本校の記念祭に、問題点として指摘されているのはその内容である。例えば、次に示す学校新聞の論説がある。(昭和58年12月24日号より一部抜萃)

記念祭に、大抵の生徒は成功意識をもっているが、記念祭の内容は毎年乏しくなっていており、不安を抱かざるを得ない。ロックバンドの真似をして楽しかった、ウェイターは面白かった、…………、それぐらいで記念祭を成功と見られては大変なのだ。記念祭はままごとではないからだ。お客さんからすら不満が漏れ始めている。「生徒自己満足の記念祭」では、もはや生徒の自覚には任せられないのかも知れぬ。開校記念祭はどうあるべきか? 来年は根本を問い

- 一般生徒の生徒会に対する関心が薄い。
- 一般生徒と生徒会役員との間に意志の疎通がはかりにくい。
- 教師の中でも生徒会に対する関心が低かったり、指導が行き届かない場合がある。
- 教官側と生徒との間で考え方がくい違うことがある。

などである。

もともと生徒会活動には、多くの教育的な期待が寄せられているはずである。学校生活を明るく楽しいものにすると共に、自主性、協調性、指導性……といった能力を引き出し、向上させるとか、親しい友を得るのに役立つなど、である。しかし、このような期待に対しても、また、部活動や行事の企画や参加などに対しても、個人によってその考え方にはかなりの幅があるように思われる。このことは、教科の学習面とのかね合いもあって、生徒のみならず教師の間でも微妙なくい違いがある。従って、上記のような困難点の指摘は当然としても、その解決は簡単ではない。

本校は創立以来30数年を経た。創立当初及びそれからの10年間位は、生徒会活動に於ても、ゼロからの出発であり、行事などについても多くの試行錯誤がくり返され、創造に満ちた時代であった。時代の推移と共に、社会的背景もかなり大きく変化してきて、生徒の生活や意識にも深い影響を及ぼしているようである。行事についていえば、近年は“行事の成功、”ということに重きがおかれ、失敗の危険をおかしても新しいものを作り上げようとする気運が感じられなくなった。その意味で本校の生徒会活動は、全般的にみて “マンネリ化、”あるいは “沈滞気味、” の感を否定できない。しかしその反面、上記の生徒会活動が目標とするものに向って、若干の問題点を内蔵しながらも、まがりなりにも歩んできているように思われるのは、本校が小規模校であり、教師間でも生徒相互の間にもまとまりが付き易いということが大きな理由であろう。